

部活動などの活躍

《ソフトテニス部》

第7回スリクソン杯荒川区中学校ソフトテニス冬季研修大会 **第3位**
女子2年Aチーム



テニス部女子
2年Aチーム

《レスキュー部》

タコあげ大会ボランティア感謝状



表彰を受ける
〇〇さん

東京都教育委員会防災標語コンクール

南千住二中からは、〇〇〇〇さん(1-1)の作品
「訓練が命を救う 近道に」が選ばれました。
のぼりが作られ、玄関や各階入り口に掲示されています。

東京都公立学校 美術展覧会 出品者

美術科(観光ポスター、絵文字、粘土で作った空缶)

技術・家庭科(CDラック、ミニチュアパーカー、アニマルクッション)

書写(書き初め)



1月に開催された
区展の様子

南千住マイスターのコーナー

「吉展ちゃん事件」は、一度は聞いたことがある日本中を震撼させた昭和の誘拐事件です。その悲しい事件の舞台となったのが他ならぬ、こ南千住です。

1963(昭和38)年3月31日、台東区入谷町で当時4歳の村越吉展(よしのぶちゃん)が何者かに誘拐され、身代金を要求する電話がかかってきました。これが「戦後最大の誘拐」と言われた「吉展ちゃん事件」の発生でした。この事件では、日本で初めて「報道協定」が結ばれ、これを契機に、被害者やその家族に対しての被害拡大防止およびプライバシー保護の観点から、誘拐事件の際には報道協定を結ぶ慣例が生まれました。

犯人が要求した身代金は50万円。当時としては高額でした。犯人はその身代金を奪取に成功します。警察はその時、寸前のところで犯人を取り逃がしてしまいます。吉展ちゃんの救出のため懸命な捜査が続けられました。報道協定解除後の公開捜査においては、テレビを本格的に取り入れ、犯人からの電話の音声を公開し情報提供を求めるなど、メディアを用いて国民的関心を集めた初めての事件でもありました。事件前後には、連日のように南千住の街がテレビに映し出されました。しかし、捜査は難航し、迷宮入り寸前になっていました。

この難事件を手がけたのが「落としの八兵衛」との異名をもつ警視庁の平塚八兵衛刑事でした。平塚らは、捜査線上に上がった関係者のアリバイなどの裏付けをし直しました。犯人は小原保という福島県出身の男でした。小原は足がやや不自由なことなどから身代金を奪取が難しいなどの理由で捜査線上から一端外されてきました。しかし、平塚の取り調べで「日暮里の大火」の日に東京にいたことが明らかになり、アリバイが崩れます。これを機に小原は全面自供しました。事件解明まで、なんと2年3ヶ月を要しました。吉展ちゃん誘拐直後に殺害されており、供述通り、円通寺の境内から白骨化した遺体が発見されました。円通寺の境内には幼い子を抱く「吉展地蔵」が建立され、両親が檀家だった同じ南千住の回向院には吉展ちゃんの冥福を祈る「吉展地蔵尊」が奉られています。幼くして命を奪われた吉展ちゃんのご遺族・ご関係の皆さまに心から哀悼の意を表します。

南千住と歴史上の人物 その10

日本中を震撼させた『吉展ちゃん事件』

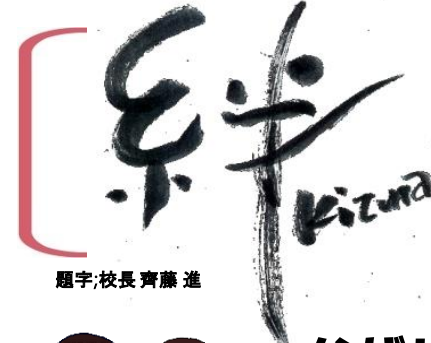
「吉展ちゃん事件」は、一度は聞いたことがある日本中を震撼させた昭和の誘拐事件です。その悲しい事件の舞台となったのが他ならぬ、こ南千住です。

1963(昭和38)年3月31日、台東区入谷町で当時4歳の村越吉展(よしのぶちゃん)が何者かに誘拐され、身代金を要求する電話がかかってきました。これが「戦後最大の誘拐」と言われた「吉展ちゃん事件」の発生でした。この事件では、日本で初めて「報道協定」が結ばれ、これを契機に、被害者やその家族に対しての被害拡大防止およびプライバシー保護の観点から、誘拐事件の際には報道協定を結ぶ慣例が生まれました。

犯人が要求した身代金は50万円。当時としては高額でした。犯人はその身代金を奪取に成功します。警察はその時、寸前のところで犯人を取り逃がしてしまいます。吉展ちゃんの救出のため懸命な捜査が続けられました。報道協定解除後の公開捜査においては、テレビを本格的に取り入れ、犯人からの電話の音声を公開し情報提供を求めるなど、メディアを用いて国民的関心を集めた初めての事件でもありました。事件前後には、連日のように南千住の街がテレビに映し出されました。しかし、捜査は難航し、迷宮入り寸前になっていました。

この難事件を手がけたのが「落としの八兵衛」との異名をもつ警視庁の平塚八兵衛刑事でした。平塚らは、捜査線上に上がった関係者のアリバイなどの裏付けをし直しました。犯人は小原保という福島県出身の男でした。小原は足がやや不自由なことなどから身代金を奪取が難しいなどの理由で捜査線上から一端外されてきました。しかし、平塚の取り調べで「日暮里の大火」の日に東京にいたことが明らかになり、アリバイが崩れます。これを機に小原は全面自供しました。事件解明まで、なんと2年3ヶ月を要しました。吉展ちゃん誘拐直後に殺害されており、供述通り、円通寺の境内から白骨化した遺体が発見されました。円通寺の境内には幼い子を抱く「吉展地蔵」が建立され、両親が檀家だった同じ南千住の回向院には吉展ちゃんの冥福を祈る「吉展地蔵尊」が奉られています。幼くして命を奪われた吉展ちゃんのご遺族・ご関係の皆さまに心から哀悼の意を表します。

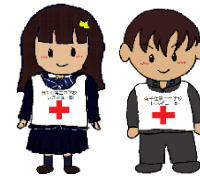
回向院
吉展地蔵尊



題字:校長 齊藤 進



学校だより
平成30年2月
第82号
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

なぜサンマの背は青く、腹は白いか

～「身の回りのこと」に関心を持とう～



校長 齊藤 進

私が尊敬する化学者の藤島昭先生を紹介します。ここ1、2か月間で2度偶然にもNHKのニュースで藤島先生が天皇陛下から文化勲章を受章されたことと両陛下にご進講(研究などを説明されること)される映像を目にしました。

藤島先生は現在、東京理科大学学長で、これまで東京大学特別栄誉教授、日本化学会会長、神奈川科学技術アカデミー理事長を務められ、内閣総理大臣賞を受賞するなど日本の化学会をリードされてきました。先生は電気分解の実験中に「光触媒」という物質の発見に成功しました。光触媒は、コーティングすると水と光があれば汚れを寄せ付けない特徴(セルフクリーニング)があり、建物の外壁、車のドアミラー、日常使う鏡、空気清浄機、舗装用ブロック、新幹線の車両、トンネル内のミラー、観葉植物などに実用化され、青色LEDと並ぶ日本人の大発見といわれています。

かつて横浜市で行われた藤島先生の講演に感動した私は思い切って荒川区での講演を依頼しました。無理ではないかと不安を募らせつつ電話をかけましたが、快く講演を受けていただいたときのことは今でも鮮明に覚えています。

藤島先生はノーベル化学賞を受賞されてもおかしくないと言われながら、経歴の上にあぐらをかくことなく実に実直で親しみやすい先生です。なぜ、尊敬するのかと問われれば、そうした人柄に加え、毎日生きていることが楽しくてしょうがないと生き生きと毎日を過ごされているお姿に感銘を受けたからです。道端の雑草に思いをはせて、その種類を考えたり、池を走るアメンボを観察したり、日常生活の中に感動を見つけられています。目を輝かせながら「小学生に教えることが本当に好きなんです。」とおっしゃる先生に尊敬の念を抱かざるを得ません。



藤島先生は身の回りのことに「なぜ」と疑問をもつことが大切だといいます。タンポポや朝顔はいつ開花するのか、桜の花はどうして一斉に開花するのか、ピラミッドはどのようにしてつくられたか、地球に埋蔵された石油の量はあとどれくらいか、など先生の講演は時が経つのを忘れてしまいます。



藤島先生は読書を勧めます。「いないいないばあ」、「ぐりとぐら」などの絵本や「15少年漂流記」、「こころ」など、幼い時期や少年期に心を耕すことの大切さを訴えます。

最後に、(1)基礎をしっかりと。(2)広い教養をつける。(3)身の回りのことに関心をもつ。(4)くらべることの面白さを知る、ことをはじめ、静かに考えること、陰徳(誰も見ていないところでよい行いをする)を積むことを講演を通して教えていただきました。

さて、サンマの背はなぜ青く、腹は白いか。それは外敵から身を守るためです。海を上空から見ると水色に見え、カモメなどの鳥が襲撃しようとしても海の色に同化して魚と識別することを困難にしています。海底から見上げると空の色に同化して白っぽくサメや大魚からの襲撃を防ぐ役割をしています。

1年生 街の先生教室

健康委員会 食育推進給食



1月24日(水)、25日(木)、30日(火)、31日(水)の4日間は、給食に“食育推進給食”の特別メニューが登場しました。食育推進給食は、子どもたちが食に対する正しい知識とバランスの良い食生活を身につけることを目的として、年に一度行っています。今年健康委員会の皆さんが世界の料理から特別メニュー8種類を考え、昨年12月に生徒の人気投票を行いました。その結果、主菜部門の人気1位は、ハワイ料理のロコモコ丼、2位はインドネシア料理のサテ、デザート部門の人気1位はフランス料理のみかんタルト、2位はカナダ料理のティムピッツと決まり、生徒が食べてみたい世界の料理として給食に登場しました。子どもたちの口に合うように味付けや食材はアレンジしてありますが、どれも本格的な料理です。生徒たちからも、「はじめて食べた」「おいしい」という感想が上がり、どのクラスからも、おかわりが続きました。健康委員会の皆さん、いつもおいしい給食をつくってくださる栄養士の山脇先生、調理員の皆さん、ありがとうございました！

2月2日(金)の午後、1年生が職業人のお話を聞く「街の先生教室」が開催されました。この日の講師は、荒川消防署の消防士の西口 大貴さん、警察官の山口 源成さん、旅行代理店のツアーコンダクター村上 哲雄さん、義肢装具士の野原 友紀子さん、看護師の池田 知里さん、グラフィックデザイナーの野村 宗弘さん、キャビンアテンダントの尾崎 綾さんの7業種7人の皆さんです。全体会では、〇〇〇〇さん(4組)と〇〇〇〇さん(3組)が司会を務め、副校長先生の挨拶、講師の皆さんのご紹介につき、1学年を代表して〇〇〇〇くん(4組)が「将来の仕事について考える機会にしましょう」という挨拶をしました。



全体会の様子



お礼の言葉を述べる〇〇さん

2回行われた分科会では、希望する2業種の方からお話を聞くことができました。キャビンアテンダントの尾崎さんは、フライトで世界中の都市を毎週訪れていたり、義肢装具士の野原さんは、実際にパラリンピックの選手の義足などを手がけていたり、また、警察官の山口さんは、多くの事件の捜査・解決に携わったりと、まさに社会の第一線で活躍されている方々ばかりで、お話を通して、仕事の意義・やりがい、そして働くことの苦勞や楽しさも伝わってきて、驚きと感心の連続でした。各分科会の最後には、生徒の皆さんからの質問も続き、講師の皆さんは、ひとつひとつに丁寧に答えてくださいました。また、デザイナーの野村さんは、希望者に放課後、実際にテーマを決めてデザインをアイデアからレイアウト、制作、彩色までを体験する補講を実施してくださいました。

終わりの会では、1学年を代表して、〇〇〇〇さん(1組)が、「今日のお話をこれからの進路選択に役立てていきます」という言葉とともに謝辞を述べました。

お忙しい中、ご講話をいただきました講師の皆さま、ありがとうございました。



消防士の西口さん

7業種7人の講師の皆さんから、仕事の楽しさややりがい、苦勞について伺いました。



警察官の山口さん



ツアーコンダクターの村上さん



義肢装具士の野原さん



看護師の池田さん



グラフィックデザイナーの野村さん



キャビンアテンダントの尾崎さん

| | |
|---|--|
| <p>主菜部門第1位</p> <p>1月24日 ★ハワイ料理 ロコモコ丼 野菜スープ いちご 牛乳</p> | <p>デザート部門第1位</p> <p>1月25日 ★フランス料理 ガーリックフランス ポトフ フレンチサラダ みかんタルト 牛乳</p> |
| <p>デザート部門第2位</p> <p>1月30日 ★カナダ料理 胚芽パン サーモン クリーム シチュー グリーンサラダ ティムピッツ 牛乳</p> | <p>主菜部門第2位</p> <p>1月31日 ★インドネシア料理 ナシゴレン サテ 汁ビーフン パイナップル 牛乳</p> |

防災検定 レスキュー部では、防災に関する学習、訓練を重ねて、防災検定や自由研究などに挑戦し、優秀な成績を収めています。

防災検定2級取得 〇〇〇〇くん(3-2)

ジュニア防災検定上級取得

ジュニア防災検定中級取得

防災自由研究優秀賞

成績優秀賞

家族防災特別賞

1年生 歯と口の健康教室

1月26日(金)5,6校時に、「**歯と口の健康教室**」が行われました。この日は、講師として歯科医師さん5名とサンスター財団から歯科衛生士さん5名に来ていただき、1学年の各クラスに入って、虫歯の原因や予防方法などをビデオや楽しいクイズで教えていただきました。虫歯や歯周病の原因は歯の表面や歯の隙間にできる歯垢にあり、**適切なブラッシングで歯垢を取り除くことが歯の健康には何よりも大切とのこと**。歯肉炎や歯周病になってしまった口腔内の画像を見たり、歯周病が進行すると全身の病気を引き起こすと聞いて、皆びっくり。恐る恐る鏡で口の中をチェックしてみると、しっかり磨いているつもりでも、まだ汚れが残っていることがわかり、その後行われた正しい歯ブラシの持ち方やブラッシングの仕方、歯間ブラシの使い方の練習に夢中になって取り組みました。また、希望者には、虫歯予防効果の高いフッ化物(フッ素)洗口剤を使って30秒間のうがいを実施しました。

歯と口の健康を保つことは、全身の様々な病気の予防や治療に役立つことにもなり、健康な生活を送るためにとても大切なことです。今回の学びを生かして、正しい歯磨きを毎日の習慣に取り入れていきたいものです。歯科衛生士、歯科医師の皆さん、ありがとうございました。

鏡を見ながら、歯磨きの仕方をチェック！



1年生 和太鼓教室

2月7日(水)に、1学年の「**和太鼓教室**」が行われました。これは、日本の伝統文化を音楽を通して学ぶことを目的に毎年開催されているもので、今年も地元の**天王太鼓「つくも会」**の方々に指導いただきました。

各クラスごと1時間の授業では、基本的な打ち方の練習からはじまり、バチさばきやリズムの取り方、力強い打ち方などを学び、しだいに皆コツをつかんでいきました。はじめはちょっと遠慮がちだった音も表情も、授業が終わる頃には、笑顔にあふれ、「荒川音頭」に合わせて迫力あふれる太鼓の音が、広い多目的教室 いっぱいに響き渡るようになりました。つくも会の皆さん、今年もお世話になりました。

鮮やかなバチさばき。キマってます！！

「天王祭」の神輿や囃子で鍛えられた音感と拍子の取り方はさすがです！

2年生 鎌倉校外学習

2月2日(金)、2年生の校外学習「鎌倉遠足」が行われました。朝から雪が降りしきる中、電車の遅延などで到着がすこし遅れた班もありましたが、全班がほぼ予定通りに鎌倉に到着しました。駅の改札を出ると、一面の雪景色。身も震えるほどの寒さでしたが、日頃から元気いっぱい2年生は、風情にあふれる雪景色の古都・鎌倉に歓声を上げて喜び、観光客も少ないため、鎌倉の寺社・仏閣、名所や旧跡をゆっくり見学して、歴史と文化を学習してきました。

今回の校外学習のスローガンは、「**ルールを守って、見る、食べる、学ぶ**」。みんなで決めたルールを守って、鎌倉ならではの見る、食べる、学ぶ楽しさを味わおう、という意味が込められています。これは、5月に行われる修学旅行の練習として、先生の付き添いなしで1日を班ごとに自由行動することも目標にしています。第一チェックの“集合時間に遅れない”を全員でクリアして、皆晴れやかな顔で、事前に自分たちで計画を立てたコースに沿って鎌倉を巡っていきました。

鶴岡八幡宮や円覚寺や建長寺、鎌倉大仏のある高德院などの神社仏閣をはじめ、北鎌倉周辺の金運成就で有名な銭洗ひ弁天、佐助稲荷神社など、班ごとに江ノ電や路線バスを利用したり、歩いて目的地を目指しました。鎌倉大仏の前では、大きさに圧倒され、思わず歓声が上がりがさうになっても、神社仏閣を見学するときのマナーを思い出し、静かに見学できました。ほかの見学地も班ごとにたいへん充実した学習になっていました。昼食も自分たちで計画したお店で食べました。名物のしらす丼や

かき揚げうどん、鎌倉でとれた山菜入りの蕎麦、中には事前に予約して焼き肉を食べた班も！大人気の抹茶ティラミスも雪の影響で行列に並ぶこともなく食べることができ、その他小町通りでは、団子やお汁粉、クレープなどのデザートをいただき、お腹も心も温まり、大満足でした。

最終チェックは鎌倉駅で行われました。大きく遅れる班もなく、小町通りなどで買ったお土産を手に全員元気に鎌倉駅を後にしました。今回の鎌倉校外学習で、鎌倉の歴史と文化を存分に楽しみ学ぶことができました。そして、自分たちで計画し行動するという修学旅行へつなげる体験ができた1日でした。



2年生 東京駅伝

2月4日(日)、第9回中学生「東京駅伝大会」が、味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園に設けられた特設周回コースで開催されました。この大会は東京都の各市区町村から選ばれた中学2年生によるチームで争われます。南千住二中からは、**男子の部に、〇〇〇〇くん(2-2)が荒川区代表選手として出場しました。**

大会は男女それぞれ参加50チーム(23区、26市、1町)で行われ、男子は17区、42.195km、女子は16区、30kmのコースでゴールを目指し、タスキをつないで激しい闘いを繰り広げました。

〇〇くんは各校のエースが集まる“花の2区”を担当。自己ベストを更新する記録で追い上げ、フィールドに入ってから6人を抜くという素晴らしい走りを見せてくれました。

また、**〇〇〇〇くん(2-3)**も練習会に参加し、当日は控えの選手として、選手のサポートと応援を一生懸命務めてくれました。沿道には、校長先生や澤田先生、田中先生、保護者や地区の皆さんが駆けつけ、熱い声援でチーム荒川の力強い走りへと健闘を讃えました。

6人抜き、自己ベストを記録！

